



【平塚子どものしあわせ課長】 定刻になりましたので始めます。

まず部会長、副部会長の選出を行います。部会長は、委員の互選により決定することと要綱で定められています。立候補、推薦がありましたらお願いします。

【石田委員】 現計画に詳しい井上委員がよろしいかと思えます。

【平塚子どものしあわせ課長】 皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【平塚子どものしあわせ課長】 では、井上委員に部会長をお願いします。

副部会長は、部会長が指名することとなっています。井上部会長、指名をお願いします。

【井上部会長】 教育現場にいらっしゃる中込委員にご協力をお願いしたいと思います。

【平塚子どものしあわせ課長】 中込委員、よろしいですか。

【中込副部会長】 はい。

【平塚子どものしあわせ課長】 では、次の議題に移ります。部会長よろしくをお願いします。

【井上部会長】 では、次第に従い進めます。なお、会議は基本的に公開の扱いとします。

次の議題「子どもにやさしいまちづくり」について、資料がありますので、事務局から説明をお願いします。

【平塚子どものしあわせ課長】 (資料「子どもにやさしいまち」の実現をめざして」、「ユニセフ「子どもにやさしいまち」をつくるために」について説明)

(第3次子ども育成計画基本理念、基本方針及び基本施策について説明)

資料「子どもにやさしいまち」の実現をめざして」の後半に示しました図は、議論のたたき台として意見を広げていただければと思います。

【井上部会長】 新しい計画の理念に基づいての考え方が示されました。何か質問はありますか。

子どもといっても色々な子どもがいます。色々な子どもが「このまちはやさしい」と感じられるためにはどうしたらよいか、といった難しさもあります。その点は、みなさんと議論していきながらひとつひとつ具現化を目指していきたいと思えます。この理念の部分は一番大事なところですので、皆様のご意見も伺いたいと思えます。岡崎委員、どうですか。

【岡崎委員】 ユニセフの子どもの権利条約に示されている4つの柱になぞらえて、子どもにやさしいとは、子どもが生きやすい、育ちやすい、守られている、参加している、ということなのかな、と思いながら聞いていました。抽象的ではありますが、生きやすい、育

ちやすいとはどういうことなのか、一つひとつ考えていくと具体的なビジョンが見えてくるのかな、と感じました。

【平塚子どものしあわせ課長】4つの権利については、子ども育成計画の35ページにも記載されていますので参考にご覧ください。

【井上部会長】子どもの権利条約では、家族と共に生きるという視点も入っています。家族を大切にしながら、どう一つひとつを実現するかということだと思います。

【立石委員】地域で参加しやすい環境を育もう、と言っているものの、例えば大人だけで輪を作っているお祭り、グランドゴルフで占領されている公園など、大人だけが楽しんでいる感じがする場面があります。大人が子どもを受け入れない雰囲気を醸し出してしまっていて、子どもも子育て中のお母さんも行きづらいつと感じることがあります。

また、PTAの活動でも人と関わりを避ける保護者が増えてきたという傾向が見受けられますが、大人自身、人との関わりを避けず、人と関わる楽しい姿を子どもに見せてほしいと思います。

【岡崎委員】同感です。大人同士の関わりのためにも、まずはしっかりしたコミュニティづくりが大事だと思います。それには大人がその土壌をつくらなくてはけません。

【井上部会長】子どもたちは、学ぶ対象がなければ学ばせんから、大人たちがどういう姿を子どもに見せるかということは、大きなポイントだと思います。

【立石委員】あと、問題のある子どもを大人が排除してしまうような対応の仕方が、その子どもの居場所を奪ってしまうようで気になっています。子どもの頃やんちゃしていても、大人になって活躍している人がたくさんいます。

【井上部会長】昔に比べ評価される基準が単純化して、学力があるとか、スポーツがすぐできるとかで評価され、それ以外の部分でなかなか評価されない。それではだめだと思います。お互いの多様性を認めていく社会でないと、ソーシャル・インクルージョンというものは成り立ちません。

他はよろしいですか。

では、私のほうから、子どもにやさしいまちづくりを条例化していきたいという考えを持っているところでして、なぜ条例化なのかというところを説明したいと思います。

(資料「子どもにやさしいまち八王子！」について説明)

八王子市では、既に子どもすこやか宣言があるので、あえて条例化する意義を条例の冒頭の部分できっちり説明できないといけません。大変ですが、その部分は、我々が色々な

意見を聞きながら案を作っていくことになります。

また、八王子らしい、八王子だからというものを作らないと、自治体が条例を作る意味がありませんので、そういう点も踏まえて考えなければなりません。

今後の進め方ですが、正式な議論については部会を開くのですが、部会だけでは間に合わなくなることも想定されます。そのときは、皆さんにご協力いただき、作文をしていただいたり、集まって相談するようなチームを作らなくてはならなくなってくると思いますので、よろしくお願いいたします。

【平塚子どものしあわせ課長】ここで、まだ触れていない資料の補足をいたします。

(資料「子どもの社会的包摂に関する地域指標」、「子どもにやさしいまちづくり」がなぜ必要か)について説明)

【井上部会長】次回から条例づくりの基本的理念について意見交換を始めていきたいと思っています。皆さんの考えをそれぞれ発表していただきたいと思っています。準備方よろしくよろしくお願いいたします。

最後にひとこと、意見、感想を聞きたいのですが荒井委員から順番に、いかがでしょうか。

【荒井委員】理念を具現化するというのは、難しい課題ですが、子どもを尊重し、子どもにとって良いことかどうか、一つひとつ深く考え、皆さんと議論していけたらと思います。

【石田委員】子どもの意見を聞く機会を設けることは大切なことです。ただし、先日の子ども意見発表会での公共交通機関への要望のように、ただ形だけ聞いて終わってしまうことは避けたいと思います。何を聞くか、どのように聞くのか、考えたほうが良いと思います。

【岡崎委員】意見発表会では、子どもの意見を聞く場を提供したというものの、意見の内容に統一感がなく、市の対応もばらばらという印象を受けました。テーマづくりや、子どもの参加の仕方について検討を要すると思います。条例については、自治体の法律ですから、罰則はないとしても、市民は拘束されます。慎重な議論が必要とされると思います。

【立石委員】子どもの意見の中には移動時の不便さを訴える声がありましたが、高齢者にとっても同じだと思うので、子どもだけではなく対象者は広いと考えれば、行政が対応する意義が高まると思います。

【田中委員】意見発表会においては、確かに子ども側と市側でキャッチボールになっていない感じがありました。大人側が誘導するのもどうかと思いますが、テーマは決めたほう

が子どもにとっても市側にとっても良いのではないのでしょうか。

【中込副部長】「子どもにやさしい」を考えるときに、やさしさの中にはきつと厳しさも入ってくるのだろうな、と思います。意見発表会では、子どもの居場所、活躍する場所が必要だなと感じました。学校だけではなく、多様に活躍する場所を作っていく、それがどういうところでどうあるべきなのか、考えていきたいと思います。

【井上部会長】事務局からは何かありますか。

【平塚子どものしあわせ課長】八王子市として行政の役割をどう組み立てていくかということは、非常に大事なことです。最終的には、行政がそこになくても、地域で自然に子どもの声を吸い上げられるような姿を目指したいと考えています。

【井上部会長】意見の言いつばなし、聞きつばなしにならないよう、責任を持って取り組んでいきたいです。では、時間が来ましたので本日は終了します。